



夕刊

発行所 中日新聞社  
名古屋市中区三の丸一丁目6番1号  
〒460-8511 電話 052(201)8811

紙つづて

多くの日本人はa and theの使い分けがわからず、英語に苦手意識がある。

言語学的観点に立つて、この違いの説明をすることはできる。私は、いたって単純な理由から、そんなことは気にしなくてよいと言いたい。

なぜなら、同じ文でも英語を母国語とするアメリカ人の中には「a」は「the」という人もいれば「どつしてもtheだ」という人もいることを知っているからだ。

文中の英文法の矛盾を突くと、アメリカ人はうんうん考え、最後には「確かにそうだけど、なんとなくtheなんだな」と、さりとて言っている。英語で論文を書き、アメリカ人研究員の論文を添削し、こんな会話を日常的にしていた経験か

もり いくえ 郁 森

aとthe

ら、この問題で悩むことをやめた。

アメリカの科学雑誌の編集者は、日本人研究者が論文を投稿すると、ほとんど必ず「英語を母国語とする人に、論文の英語を添削してもらいなさい」と言ってくる。「a and theの使い方がおかしい」と言われることも頻繁だ。

面白い話を聞いた。日本人研究者がアメリカ留学時代の研究成果を論文にして、アメリカの科学雑誌に投稿した。すると、予想通り「英語を母国語とする人にみてもらいなさい」ところが、

この論文は、留学先研究室のボスである生粋のアメリカ人が、文章の加筆修正を万全にして完成させたものだった。そんなこんなで、私は自分の研究室の論文を英文校正に出したことがない。

(名古屋大学教授)

2011.2.4

2011年2月4日 1面 No.5